

遠藤利克展 供犠と空洞

ENDO Toshikatsu Exhibition
Sacrifice and Void



2009 5.23 — 6.28
[土] [日]
午前10時—午後7時 / 会期中無休

入場
無料



「空洞Ⅱ」2005年
水、鉄、鏡、漆・樹脂にブロンズ、331.5×380×805.5cm
撮影：山本耕



「寓話 I-1」1984年
木、水、石、大地、大気、太陽、(火)
40×40×60cm
撮影：山本耕



「寓話-III-木の舟」1988年
木、水、タール、(火)、400×85×70cm、ギャラリー乗
撮影：山本耕



「無題」1987年
肉、直径300cm
ギャラリーグーター・ balan・パリ



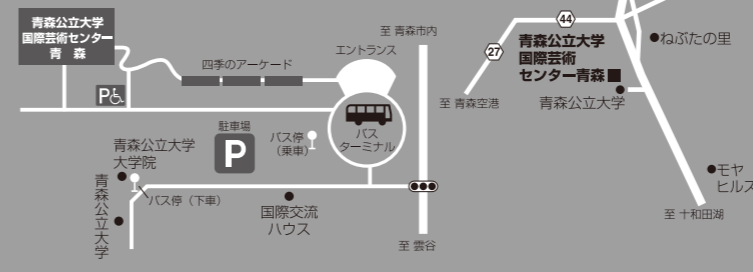
「無題」イベント1987年
骨、ブロンズ、大地、大気、太陽、(火)、直径400cm
パリ郊外

遠藤利克展 供犠と空洞

Aomori Contemporary Art Centre
国際芸術センター青森

交通案内

- JR青森駅から青森市営バスまたはJRバスにて約40分
「青森公立大学、モヤヒルズ行」乗車、
「青森公立大学」下車
- ※土日祝日に青森市営バスをご利用になる場合は、
1日乗り放題の「1日フリールートカード」が
大変お得です。
(大人用500円、小児用250円)
- 東北自動車道 青森中央I.C.から約5km
- 青森空港からタクシーで約20分



お問い合わせ / 青森公立大学国際芸術センター青森

〒030-0134 青森市合子沢字山崎152-6 TEL:017-764-5200 FAX:017-764-5201
E-mail:acac-1@acac-aomori.jp http://www.acac-aomori.jp/

このたび、国際芸術センター青森では、現在日本を代表する彫刻家、遠藤利克の個展を開催いたします。70年代より国内外で精力的に作品を発表し続ける遠藤は、一貫して世界と人間(あるいは芸術)との原初的/神話的/無意識的な関係を目を向けてきました。火や水、大地や太陽といった素材を扱いながら、精神と衝動の深淵に対峙する遠藤の作品は、岡本太郎が発見した「縄文」の残滓を感じさせるこの青森で、どのような姿を見せるのでしょうか。本展では、「空洞」と「供犠」という遠藤作品における2つのキーワードのもと、国内未発表作品を含め、その作品世界を紹介いたします。

青森で作品を発表することに、私は少なからず興奮を覚えている。それは、青森という土地が、私の思考の中心を刺激する濃密な磁力を発している気がするからだ。それはもしかしたら、いささか過剰な思い込みかも知れない。だがそれが思い込みであるとしても、重要なのは、それにもかかわらず青森は私の想像力を下方から突き上げ続けて止まないという、その事実の方なのだ。その想像力の在処は、石川県真脇と青森を結ぶ補助線上に形成されてくる振動、あるいは情動のなかにある。

遠藤利克

アーティスト・トーク「供犠と空洞」 スライドレクチャー + 対談

5月23日(土) 午後2時~4時 *申込み不要。直接会場へ

これまでの作品をスライドで紹介しながらの遠藤利克氏によるアーティスト・トークのあと、ACAC館長浜田剛爾と対談を行います。

遠藤利克 略歴

1950 岐阜県高山市に生まれる
1972 名古屋造形芸術短期大学彫刻科卒業

主な展覧会

- 1984 「現代美術への視点——メタファーとシンボル」、東京国立近代美術館/東京、国立国際美術館/大阪
- 1986 「第6回インド・トリエンナーレ」、Lalit Kala Akademy /ニューデリー、インド
- 1987 「ドクメンタ 8 カッセル1987」、Museum Fridericium /カッセル、ドイツ
「もの派とポストもの派の展開 / 1969年以降の日本の美術」、西武美術館/東京
- 1989 「Toshikatsu Endo」(北歐巡回個展)、The Nordic Art Centre /フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク
- 1988 「第43回ヴェネツィア ビエンナーレ アベルト'88」、Corderie dell' Arsenale /イタリア
- 1989 「第20回ミデルハイム・ビエンナーレ—日本野外彫刻展」(ユーロパリア'89ジャパン)、ノアントワープ、ベルギー
- 1990 「プライマル・スピリット——今日の造形精神」(日・米・加巡回)、ハラミュージアムパーク/群馬、ロサンゼルス・カウンティ美術館/ロサンゼルス、U.S.A.ほか
「第44回ヴェネツィア・ビエンナーレ 1990」、Giardini di Castello /イタリア
「80年代日本現代美術展」(独・壊巡回)、Frankfurter Kunstverein /フランクフルト、ドイツほか
「Japan Art Today」(北歐巡回)、ヘルシンキ市美術館/フィンランド ほか
- 1991 「ZONES OF LOVE 日本の現代美術」(濠・ニューージーランド巡回)、The Art Gallery of Western Australia /パース、オーストラリア ほか
「Earth: Air: Fire: Water — The Sculpture of Toshikatsu Endo」(英国・アイスランド巡回)、Mostyn Gallery11、Yorkshire Sculpture Park、I.C.A.London / U.K.、Douglas Hyde Gallery /アイスランド(個展)
- 1994 「戦後日本の前衛美術」、横浜美術館/神奈川、グッゲンハイム美術館/ニューヨーク、U.S.A.
「第22回サンパウロ・ビエンナーレ」、サンパウロ・ビエンナーレ/パピオン/ブラジル
- 1995 「戦後文化の軌跡 1945-1995 展」、目黒区美術館/東京、広島市現代美術館/広島、兵庫県立近代美術館/兵庫、福岡県立美術館/福岡
- 2000 「光州ビエンナーレMAN+SPACE」、光州市立美術館/光州、韓国
- 2001 「横浜トリエンナーレ2001メカ・ウェブ—新たな総合に向けて」、パシフィコ横浜/神奈川
- 2002 「現代美術への視点—連続と侵犯」、東京国立近代美術館/東京
- 2004 「風景にメス展」、八戸市美術館/青森
- 2006 「Trieb—振動(Rein Room)」, 下山芸術の森発電所美術館/富山(個展)
- 2008 「所沢ビエンナーレ・プレ美術展 引込線」、西武鉄道旧所沢車両工場/埼玉
- 2009 「第5回円空大賞展」、岐阜県美術館/岐阜